

東北芸術工科大学伝統館

薪能

能 自然居士

観世鍊之丞

人商人に連れ去られた幼子を救うため、孤軍奮闘の働きを見せる半俗の青年僧、自然居士。芸尽しと緊迫感に満ちた痛快劇能。

狂言 鬼瓦

おにがわら

山本東次郎

恐ろしげな顔つきの鬼瓦を見た大名は、何故か突然泣き出して…。素朴な夫婦愛をほのぼのとした笑いのうちに描いた狂言。



2025年6月9日(月) 17時30分開演 (受付開始 16時30分)

東北芸術工科大学水上能楽堂「伝統館」

入場協力金：一般の方 3,000円 / 本学生の保護者 2,000円 / 他学生 1,500円

※小中高生・本学生無料

【主催】東北芸術工科大学 【後援】山形県 / 山形市

申込先

お申込み者1名につき往復はがき1枚に、往信面に「ご氏名、ご住所、電話番号、薪能鑑賞希望」とご明記の上、返信面の宛先にご住所・ご氏名をお書きいただき、下記宛先にお送りください。折り返し、入場整理券として返送させていただきます。なお、本学生の保護者の方(1家族2名まで)は、上記に加えて、往信面に本学生の氏名と学籍番号をお書きください。

東北芸術工科大学 地域連携推進課 〒990-9530 山形市上桜田三丁目4番5号

Tel: 023-627-2217 Fax: 023-627-2081 E-mail: chiiki@aga.tuad.ac.jp URL: <http://www.tuad.ac.jp>

東北芸術工科大学伝統館新能

2025年6月9日(月)午後5時30分開演

於 東北芸術工科大学水上能楽堂伝統館

学長挨拶 中山ダイスケ

解説 鶯澤 光

狂言 鬼瓦

シテ 大名 山本東次郎

アト 太郎冠者 山本凜太郎

後見 山本修三郎

— 火入れ・休憩 —

子方 女見 安藤継之助

シテ 自然居士 観世鏡之丞

能 自然居士

ワキ 人商人 宝生 常三

ワキツレ 人商人 同輩 館田 善博

アイ 雲居寺門前ノ者 山本 則重

大鼓 亀井 広忠

小鼓 飯富 孔明

笛 栗林 祐輔

小早川康充 谷本 健吾

小早川泰輝 北浪 貴裕

青木 健一 馬野 正基

松山 隆之 長山 桂三

後見

安藤 貴康

観世 淳夫

地謡

青木 健一 馬野 正基

松山 隆之 長山 桂三

【演目紹介】

狂言 鬼瓦 (おにがわら)

訴訟のため長らく在京していた大名がこの度めでたく訴訟も片付き、晴れて帰郷することになった。これも薬師如來の御利益であると思ひ、大名は太郎冠者を伴って因幡堂にお礼かたがた暇乞ひの参詣をする。さて自分も故郷に御堂を建て、薬師を勧請しようと思ひ立った大名。参考のため因幡堂の様子をあらわにちらと見て回り、一々その立派さに感心していると、ふと目に留まったものがある。太郎冠者にその名を問うと、それは鬼瓦であると言う。

大名はそのいかつい表情の鬼瓦を見るうち、その顔が田舎に残した妻によく似ていると言つて懐かしさのあまり泣きだして…。

能 自然居士 (じねんこ)

都東山の雲居寺では自然居士が寺造営のため七日間の説法を行つており、今日はその結願の日である。

やがて多くの聴衆が集まる中、居士が高座に上がると少女が小袖を手に現れ、居士に捧げる。少女は亡き父母の供養のため、その身を売つて小袖を得たというのだ。居士も人々も少女を憐れみ、ともに涙を流す。

そこへ人商人が現れ、制止する門前の者を太刀で脅すと少女を連れ去つてしまう。居士は今日までの六日間が無駄になることも厭わず説法を即刻中止し、少女を救うため小袖を手にして急ぎ一行のあとを追う。

舞台は変わり、大津松本の琵琶湖畔。今まさに舟を漕ぎ出した人商人に追いついた居士は、小袖を人商人に投げ返し、湖に入って舟に取り付いて引き留める。

さらに居士は舟に乗り込むとどっかと居座り、少女を助けるまでは命に代えて艇子でも動かぬ覚悟を見せる。それを持て余した人商人は遂に少女を返すことにするが、ただで返すのは口惜しいと、居士を散々に蹴つてから返すことにし、居士に舞を舞うよう強いる。居士は屈辱に耐え、要求されるまま舞、鼈、羯鼓と次々と舞つて芸尽くしを見せ…。

登場人物の丁々発止のやり取りや芸尽くしに、当時の庶民の生き生きとした姿が感じられる痛快劇能。

【演者紹介】

山本東次郎

大藏流狂言方。一九三七年、故三世山本東次郎の長男として生まれる。四二年、狂言『痿痺』のシテで初舞台。五二年『三番三』、五八年『釣狐』、七一年『花子』を披く。六四年度芸術祭奨励賞受賞。九二年度芸術選奨文部大臣賞受賞。九四年度観世寿夫記念法政大学能楽賞受賞。九八年、紫綬褒章受賞。〇一年、エクスンモービル音楽賞(邦楽部門)受賞。〇七年、日本芸術院賞受賞。一二年、旭日中綬章受章、文化功労者顕彰。重要無形文化財各個指定保持者(人間国宝)。一般財団法人杉並能楽堂理事長。

観世鏡之丞

観世流シテ方。一九五六年、故八世観世鏡之丞静雪(人間国宝)の長男として生まれる。伯父観世寿夫、および父に師事する。六〇年、四歳で初舞台。〇二年、九世鏡之丞を襲名。力強さと繊細さを兼ね備えた謡と演技には定評がある。新作能にも意欲的に取り組むほか、映画出演や現代演劇、現代音楽とのコラボレーションなど、古典やジャンルを超えた世界でも幅広く活躍。〇八年度日本芸術院賞受賞。二年紫綬褒章受賞。重要無形文化財総合指定保持者。公益社団法人鏡仙会理事長。公益社団法人能楽協会理事長。京都芸術大学評議員。

【開催にあたり】

七〇〇年の歴史を持つ能は、「ユネスコ世界無形文化遺産」に指定されるなど日本だけでなく世界的な舞台芸術のひとつとされています。

本学に水上能楽堂「伝統館」が出来ましたことを機に、より多くの県民の皆さまに幽玄なる能楽の世界に親しんでいただき、東アジアに生きる日本人としての社会的・文化的アイデンティティを確認する機会としていただければ幸いです。

東北芸術工科大学長 中山ダイスケ